

1 題材名 カラフル雪で表そう - フリージアン魔法 -

2 本題材の価値

本題材は、以下の学習指導要領に準じて設定する。

表現(2)

- ア 感じたことや想像したことから、表したいことを見つけて表すこと。
- イ 好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表すこと。

本題材では、子どもが教師の創作物語の内容を基に、物語の世界を想像をふくらませて考え、自分なりにアレンジしながら絵に表していく。

子どもに提示する創作物語には、「フリージアン魔法」という「多様な解釈のできる言葉」が含まれる。これは、子どもがその形や色などを自由に解釈して表すことのできる言葉である。こうすることで子どもは、『フリージアン魔法』を使って、「○○を表そう」などと考え、その表し方を主体的に見付けていくことができる。表したいものを自ら見つけた子どもは、表したいことを実現するために、自分で新しい表し方を考えだしたり、工夫して表したりしながら活動していくことができる。また、主体的な活動により、子どもは表したいもののイメージに近付けるための工夫をし、自分の表現に満足感を感じることができる。

この創作物語は、子どもが少しずつイメージを広げていけるように段階的に提示する。①魔法使いの自分を表す②スノーペーパーをカラフルに表す③カラフルスノーペーパーを使って、「カラフル」を表す、の順である。

これにより子どもは、絵に表すもののイメージを次々と発想し、絵に表すことで構想していくことができる。表したいものを子どもが主体的に見付けていける点、表したいもののイメージを次々と考えていける点、これが本題材の主な価値である。

3 本単元で学びをつなぐ力を高めた姿と学びをつなぐ力

本題材における学びをつなぐ力を高めた姿とは、創作物語の内容と、表したものの形や色から連想される既知の知識や経験とつなぎながら、表したいもののイメージを次々と考え、工夫を重ねながら、その形や色を考えて表現する子どもである。具体的には、「カラフルスノーペーパーをちぎったり、切ったりしたときの形や色から『カラフル』を見付け、自分のイメージに近づくように、形や色を○○に工夫して表すことができた」などと考える、物語の内容から思い付いたことや、不織布や障子紙の形や色を基に、自分なりの工夫を重ねて表せたと考える子どもの姿である。

① 「中核的な知識や技能」

表したいものを自ら見いだしたり、よりよい表し方を考えたりする能力。

② 「対象」

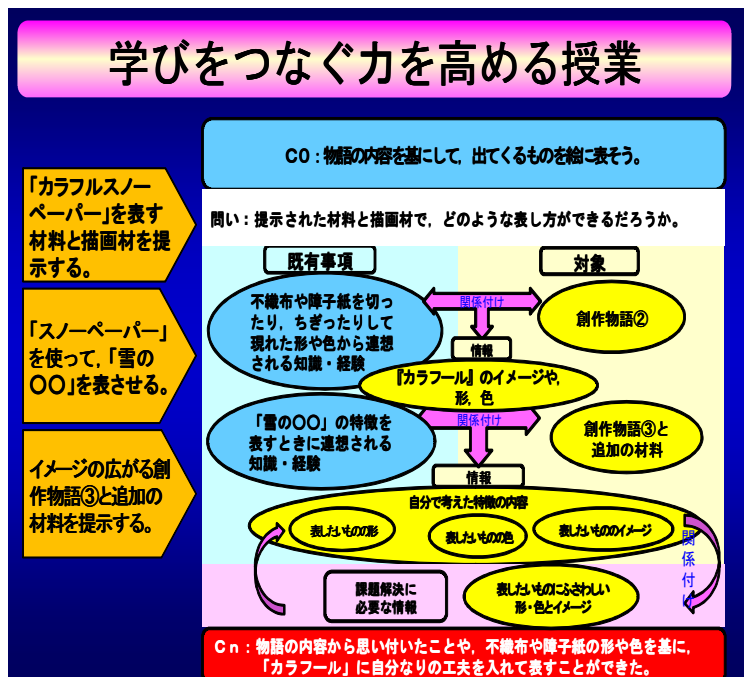
「フリージアン魔法」という「多様な解釈のできる言葉」を表す内容の創作物語②と、自分なりの工夫を重ねて表すことのできる創作物語③やその材料。

③ 学びをつなぐ力

関係付けるすべを用いて、連想される既知の知識や経験を基に、表したいもののイメージを次々ともち、それにふさわしい形や色を収集・判断する力。

④ 考え方の自覚

創作物語の内容や表したものの形や色をから連想される知識経験を基に、カラフルにふさわしい形や色を見だし、工夫を重ね、より自分の表したいものに近付けたという自覚や満足感。



4 指導の構想

不思議な世界の入口となる創作物語①では、正体不明の「フリージアン」が登場する。雪に魔法をかけることのできる「フリージアン」は、物語の中の「子どもたち」を魔法使いにしてあげようと投げ掛ける。子どもは、自分たちと同じような登場人物に自分自身を重ね合わせ、物語の世界に引き込まれていく。そして「自分だったら〇〇な魔法使いになりたいな」と考える。そこで、厚紙を組み合わせ、それらを足割リベット（固定用ねじ）で留めた「魔法使いになった自分」を表させる。子どもは、「ぼくも『フリージアン』のように魔法を使ってみたいな」などと、次の創作物語に期待感を抱く。

働き掛け1（1日目）

「カラフルスノーペーパー」を表す材料と描画材を提示する。

子どもに「提示された材料と描画材でどのような表し方ができるだろうか」と問いをもたせるための働き掛けである。創作物語②では、「フリージアン」から「魔法を使ってみよう」と提案がある。ここで子どもの興味関心が高まったところで「スノーペーパー（不織布、障子紙）」を提示する。これが材料である。そして「マジカルドーシュを使って、スノーペーパーをカラフルにしてみよう」と投げ掛ける。描画材は、絵の具と霧吹きを提示する。これにより子どもは、材料（不織布）と描画材（絵の具とスプレー）で、どのような表し方ができそうかと問いをもち、色を付ける。霧吹きは、低学年が、様々な色を思いのままに付けていくのに扱いやすい描画材の一つである。子どもは、不織布や障子紙の上に、折紙でつくったカラフル雪の結晶を並べる。そして、その上から絵の具を溶いた色水の入った霧降で吹きかける。すると、不織布や障子紙がカラフルに染まり、幻想的なスノーペーパーが出来上がる。その後、スノーペーパーの上に乗らせ、iPadを用いて撮影を行わせることで、表したもののよさや面白さを鑑賞させる。

なお、この活動は教室の床に不織布や障子紙を大きく広げることで、子どもがかかわりながら活動が行えるようにする。これにより「〇〇のように色を付けたい」といった思いを共有し合ったり、描画材の様々な扱い方を伝え合ったりしながら活動することができる。思いの共有や、扱い方の伝え合いによって、子ども一人一人の思いは一層ふくらみ、霧吹きでカラフルに色を付けるといった描画材の扱い方を習得することができる。

働き掛け2（2日目）

「スノーペーパー」を使って、「カラフル」を表させる。

表したいものを主体的に見付けさせるための働き掛けである。前時に表した、カラフルスノーペーパーは、つり下げておく。こうすることで、教室全体を鑑賞空間とし、子どもが表したいものの形や色を考える際の手掛かりにしておく。

「スノーペーパー」をカラフルに表した子どもに、創作物語の続きを提示する。そして、物語にのせて、「この『スノーペーパー』をちぎったり、切ったりして、カラフルを表してみよう」と提案する。子どもは、材料をちぎったり、切ったりすることを通して、**関係付けるすべ**を用いて、思い思いの「カラフル」の形や色を見付けだし（収集）、何をどのように表そうかと、表したいものを模索していく。

そして子どもは、不織布や障子紙の形から、様々な自分なりの「カラフル」のイメージをもち、それにふさわしい形や色を見付けて（判断）いく。

働き掛け3（2日目）

イメージの広がる創作物語③と材料を提示する。

子どものイメージを広げ、よりよい表し方を考えさせるための働き掛けである。創作物語③では、子どもが表した「カラフル」のイメージが広がるように、新たな素材を取り入れて表す内容である。追加する材料として、アルミホイルとカラーセロファンを用意する。雪の輝きや、色の面白さを引き出すことのできる素材である。子どもは、「カラフル、もっと〇〇になるように、アルミホイルをはってきらきらするように表した」などと、材料の特徴を生かしながら工夫を重ねて、よりよい表し方を考える。

そして子どもは**関係付けるすべ**を用いて、創作物語③の内容や、自分の表した「カラフル」の形や色から連想される知識や経験を基に、自分なりの工夫を加えて絵に表す。これにより子どもは、一つのイメージに留まらず、自分で見つけた工夫を基に表したいもののイメージを次々ともち（収集）、その形や色を考えて（判断）絵に表せるようになる。

なお、学びをつなぐ力を高めた子どもにするためには、働き掛けそれぞれにおいて、表現をしている子どもの過程に目を向け、「どうしてその形（或いは色）にしたの」「〇〇をイメージしたんだね」「どうしてそんなイメージになったの」「次はどんなものを描こうと思っているの」など、子どもの思考を言葉にしてフィードバックし、その都度、表現のよさや面白さを認めていく。こうすることで、子どもは、自分のイメージしたきっかけに気付いたり、工夫して表したよさや面白さに満足感を抱いたりし、自分の表したいものを十分に表せたと自覚し、学びをつなぐ力を高めた子どもの姿となる。

5 指導計画 全6時間（18Q）

別紙「単元カード」参照

6-① 本時の構想<第1日目> 3/6時間(60分授業)

(1) ねらい

関係付けるすべを使って、「カラフルスノーペーパー」のイメージをもち、三色の霧吹きで、色の組み合わせの面白さを考えて表すことができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆考えるすべ	教師の働き掛け
<p>1 「スノーペーパー」に「マジカルドーシュ」で色を付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前の授業では、魔法使いの自分ををつくったよ。 ・お！「フリージアン」がいよいよ魔法を教えてくれる ・一体何だろう？ ・スノーペーパー？ ・大きい紙だ！ ・真っ白の紙だよ。 ・なんだかふわふわしているね。 ・ざらざらした感じもするよ。 ・色を付けたら、どんな感じになるのかな。 ・色を混ぜてみたいな。 ・早くやってみりたいな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>スノーペーパーにたくさんの色を付けたら、カラフルになった。 この紙はなんだかモコモコふわふわしていて、やわらかいね。表面は、よく見たらざらざらしてる。霧吹きで水を付けて色を付けていったら、にじんで雪みたいに表せたよ。</p> </div> <p>☆関係付けるすべを用いて、連想される知識経験と創作物語の内容を関係付けて彩色する</p>	<p>○説明「①のお話は、どんなお話だったかな振り返ってみよう」</p> <p>○指示「それでは、これから②のお話を見ましょう」</p> <p style="text-align: right;">【働き掛け1】</p> <p>○指示「このマジカルドーシュを使って、スノーペーパーをカラフルにしてみよう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 創作物語②を提示する。 ※ 内容は別紙参照。 <p>○説明「スノーペーパーとは、これです！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 不織布を広げて提示する。 ※ 子どもに不織布を広げさせる。 ※ 霧吹きには事前に赤、青、黄色の色水を入れておく。
<p>2 カラフルにしたスノーペーパーのお気に入りの形や色を見つけて撮影する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラフルスノーペーパーが出来あがった。 ・ぼくのお気に入りの、この部分の色が混ざってきれいな色に見えるところだよ。 ・わたしは、この部分がにじんでるところがきれいだと思うな。 ・たしかに、雪みたいな感じだね。 ・にじんでいると、色が重なるみたいできれいだね。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>お気に入りの色を撮影してみよう。友達の色を付けたところにも行ってみよう。お、なんだかここにきれいな色があつたぞ。ほかにも、いろんな色や、にじんでいるところもすてきだな。</p> </div>	<p>発問「カラフルになったスノーペーパーの中で、お気に入りのところはどこかな」</p> <p>指示「お気に入りのところで、撮影会をしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 4人に1台ずつiPadを持たせる。

(3) 評価

○ 色水入り霧吹きを用いて、カラフルになる色の組み合わせを見付けたり、紙に色がにじむおもしろさを見付けたりしながらカラフルスノーペーパーを表すことができる。

(発想構想の能力)

6-② 本時の構想<第2日目> 4/6時間(60分授業)

(1) ねらい

関係付けるすべを使って、不織布の形や色を基に「カラフル」を表し、自分なりのアレンジを加えながら、表したいもののイメージを次々と考え、ふさわしい形、色を考えて絵に表すことができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆考えるすべ	教師の働き掛け
<p>1 スノーペーパーをちぎったり、切ったり、組み合わせたりして「カラフル」を表す方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スノーペーパーがぶら下がってるぞ。 ・スノーペーパーがカラフルになってきれいだな。 ・カラフルスノーペーパーで遊んでみよう！ ・不織布や障子紙は重ねたり、組み合わせたりもできるな。他にも、〇〇にできるぞ！ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>思い付くままにちぎったり、切ったりしていたら、紙の形が〇〇に見えたよ。カラフルなスノーペーパーをちぎってふわふわな「カラフル」ができた。まだまだいろいろな色も付けてみたいな。</p> </div> <p>☆関係付けるすべを用いて、紙をちぎったり切ったりしてできた形と既存の知識経験を関係付けて表している。</p>	<p>○説明「カラフルなスノーペーパーができたね」</p> <p>※ 子どもが撮影した画像を数枚提示する。</p> <p>○指示「おっと、ここで『フリージア』から続きのお話が届いていたよ。読んでみよう」</p> <p style="text-align: right;">【働き掛け2】</p> <p>※ 台紙を配付する。</p> <p>※ 物語内容を子どもと確認し、不織布をちぎる、切るのほかにどのように使うか、子どもからもアイデアを出させる。 例) ちぎる、切る、折る、重ねる、組み合わせる、くしゃくしゃにする など</p>
<p>2 自分なりのアレンジを加えて、「カラフル」を表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何か描き加えたいな。 ・クレヨンとか絵の具も使ってみよう。 ・新しい魔法だ！楽しみだな。 ・アルミホイル！きらきらしていいね。 <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくだったら、新しい材料で〇〇などころを「カラフル」に付けてみよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「カラフル」がもっときらきらするように、アルミホイルを切って付けたよ。その上にカラーセロファンを貼ったら、カラフルに光って見えてすてきだな。お気に入り、カラフルに光った「カラフル」になったことだよ。</p> </div> <p>☆関係付けるすべを用いて、新たな材料から連想される知識や経験と、表したい物の特徴とを関係付けて表している。</p>	<p>○指示「では『カラフル』を表してみよう」</p> <p>※ どんな「カラフル」になりそうか、数名発表させる。</p> <p>※ 「次にどうしたいか」と投げ掛け、「もっと〇〇したい」という声を取り上げる。</p> <p>○説明「おっと、『フリージア』から手紙が届いていたよ」</p> <p>※ 手紙の内容を確認しながら、アルミホイルとカラーセロファンを提示する。</p> <p style="text-align: right;">【働き掛け3】</p>

(3) 評価

○ 不織布や障子紙を使って表した「カラフル」に新しい材料を使ってアレンジを加えながら、表したいもののイメージを次々ともち、その形や色を考えて表すことができる。
(発想構想の能力)